



一直線

9月号増刊号 狭山市立西中学校 学校だより

学校教育目標

～自主的に考え、

正しく行動できる生徒～

○挨拶

○清掃

○素直

文責 校長 平沼 尚

第58回体育祭が行われました



9月16日(日)秋雨前線の影響から天気が心配される中、第58回体育祭が行われました。各クラスとも必勝の願いを込めて制作したクラス旗を掲げ、団結してどの生徒も最後まで全力で競技に臨みました。とくに、天候の関係で十分に練習時間が取れなかったにもかかわらず、「西中魂ここにあり」と男子の組体操や女子のダンスでは、集団で全校生徒が一丸となった演技の素晴らしさにとても感動しました。ご来賓や保護者の方々からも大きな拍手をいただきました。また、運営面でも、それぞれの仕事を受け持った生徒たちが、意欲的にてきぱきと動く姿はとても素晴らしかったです。さらに、正門付近のパトロールや来賓・保護者受付、駐車場・駐輪場の整理等、PTA本部・役員の方やおやじの会の皆様には本当にお世話になりました。

保護者の皆様のお力に感謝



例年のことですが、閉会式後の片付けでは、PTA本部・役員の方やおやじの会の皆様だけでなく、体育祭を見に来られていた保護者の皆様にもお手伝いをいただき、あっという間に片付いてしまいました。特に今年はお手伝いいただいた保護者の皆様が多く感じました。あらためて本当に学校を応援してくださる保護者の皆様がたくさんいるのだと職員一同感動いたしました。ありがとうございました。

★西中生、がんばっています！★



陸上部：県大会出場

3年女子 100M 2年男子 100m

2年走り幅跳び

狭山市立小中学校科学教育振興展覧会

金賞 2年 2人 入間地区科学振興展へ

銀賞 3年：4人

銅賞 1年：4人

サッカー狭山市夏季大会

優勝：サッカー部



スポーツの秋？読書の秋？芸術の秋？ 食欲の秋？それとも・・・

「天高く馬肥ゆる秋」とも言いますが、秋は様々なことにチャレンジするには、絶好の季節です。学校では、体育祭の後も、新人戦、校内音楽会・・・と、秋にふさわしい行事が続きます。そんな中、『勉強の秋』はどうでしょうか？楽しい行事の合間に、中間・期末テストが待っています。特に3年生にとっては、進路選択にあたって大切な2学期です。メリハリのある生活をしたいものです。

以前、新聞のコラムに「記憶法」について書かれていたものを紹介します。

「人間がいかにか忘れやすい存在であるかを明らかにした、エビングハウスの忘却曲線。教育プロデューサーの出口汪(でぐちひろし)さんは、実験結果を示しながら、効果的な学習計画の立て方を教えてくれました。

20分たつと人は覚えたことの42%を忘れ、その後は緩やかに忘却していく。データで注目すべきは、最も忘れるのが実は記憶直後だということ。忘れやすいものを棒暗記しただけでは、定着が難しいことは明らかです。「だから2度目の学習は、1時間後を目安に行うのが鉄則」。出口さんは、そう強調します。1年後まで記憶を維持するには、4~5回の反復が必要と言われています。出口さんが推奨する学習計画を英単語で説明すると次の通り。

最初の日に100語を覚え、1時間後にチェックします。記憶できていないものだけを抜き出し、もう一度学習し直します。翌日、もう一度おさらいしますが、多分10分とかならない。これで3回繰り返したので、もう当分は忘れないはずです。

次のタイミングは1週間後で十分。さらに半年後、ダメ押しで復習すれば、5回繰り返したことになり、記憶の定着が図れます。棒暗記を防ぐには、文脈の中で意味をとらえるように心掛ける。辞書を引かずに文脈から推論すれば、論理力も鍛えられるそうです。「記憶と論理は表裏一体。論理を切り離れた記憶法は、決して理にかなった勉強法ではありません」。出口さんのメッセージをかみしめながら、オフィスを辞去しました。(保井隆之氏)

エビングハウスの忘却曲線

